



年 組 名前

# 道新でワークシート

## 自治研究所道内調査 「家事と両立」「理解」壁

政令指定都市の札幌市のほか15市と12町の議会議員全488人を対象に7月に実施し、342人から回答を得た。回答者の76%が男性、24%が女性だった。

総務省の昨年末時点の調査によると、道内市町村議会会の女性議員の比率は13・8%。女性議員ゼロの議会の割合は29・1%と全国で5番目に高かった。アンケートでは「女性議員が少ない」との答えが56・7%、「女性議員を増や

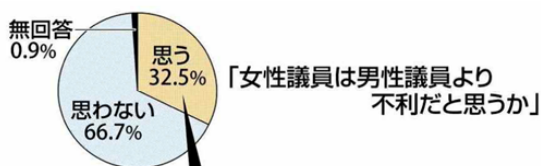
道内の政治、行政学者らでつくる北海道地方自治研究所（理事長・佐藤克広北海学園大教授）が道内28市町の地方議員に「女性の政治参加」についてアンケートを行ったところ、議会での待遇は男女の公平性が保たれているとの答えが9割に上った一方、議員活動と家庭との両立の大変さなどを理由に「女性議員は男性より不利と思う」との回答が3割あった。社会的な障壁が残り、女性が議会に参画しづらい現状が浮き彫りになった。（岩崎あんり）

# 地方議員3割「女性不利」

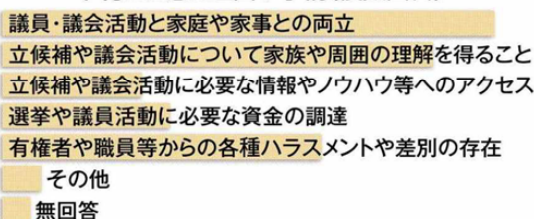
「女性議員は男性より不利だと思うか」

「議員は複数回答で聞くと」「政策が多様化する」（51・7%）、「議会が多様化・活性化する」（49・6%）などが多かった。男女差別の有無を調べた質問では「議会内の役職は男女公平に取り扱われている」が95%、「議案の提出や質問は男女公平に取り扱われている」が99・4%など、議会での待遇を問題視する声は少なかった。一方で「女性議員は男性

議員より不利だと思う」との回答は32・5%あり、女性議員の約6割、男性議員の約2割がこう答えた。不利だと思う理由は「家庭や家事との両立」（79・3%）、「立候補や議会活動について家族や周囲の人々の理解を得ること」（69・4%）、「有権者や職員等からの各種ハラスメントや差別の存在」（51・4%）などが挙げられた。グラフ。



### 不利だと思う理由や事柄（複数回答）



調査を担当した北大大学院法学研究科の馬場香織准教授（比較政治）は「男女間で現状認識の差が明らかとなった。男女の役割に関する社会の意識を改善するとともに、候補者や議席の一定比率を女性に割り当てるクオータ制と併せて家事と議員活動を両立しやすくするオンライン会議や代理出席制度などのインフラ整備、ハラスメント根絶の取り組みが必要だ」と話している。

2022年11月27（日）朝刊 全道版 3ページ（記事は再編集しています）

①「女性の政治参加」のアンケートの結果から、道内ではどのような課題が見られたか、記事の中から見つけなさい。

②女性の社会進出について、記事も参考にしながら自分の考えを書きなさい。